
教育総合センター

だより

NO. 147

平成 30. 3. 1



「これからの生徒指導」

教育委員会学校教育課生徒指導担当
課長 前田 裕司

今、社会は少子高齢化、グローバル化、高度情報化と急激に変化してきている。そのことにともない、学校をとりまく環境や求められることも大きく変化してきている。従来、学校が担ってきた学習指導・生徒指導だけでなく、新学習指導要領に対する取り組みやいじめの問題、多様な価値観を持った保護者対応など、課題は山積みである。

近年、本市における児童生徒の問題行動件数の推移は、総数では小学校で増加傾向、中学校で減少傾向にあるが、問題行動件数の中の刑法犯行為の件数をみると、小中学校ともに大幅に減少してきている。なかでも、『発達に課題がある子ども』や『不登校の子ども』への対応は今後ますます増加していくと考えられる。原因や背景も様々で、学校だけで対応することが困難なケースも少なくない。

そこで、教育委員会は、不登校対策事業において、適応指導教室の『はつらつ学級』と合わせて、今年度からは、6地区に2名ずつの自立支援室指導員を配置し、家庭訪問や学校の別室、地域の公民館等を活用したサテライト学習支援など、不登校児童生徒の状況に応じてより柔軟に対応できるような態勢を整えた。また、不登校対策重点校として小学校

2校、中学校2校を決め、それぞれの学校で効果のあった取組を市内の小中学校へ広げていきたいと考えている。

さらに、尼崎市としては、平成31年度に、あまがさきひと咲きプラザに『子どもの育ちに係る支援センター』が開設予定であり、福祉、保健、教育が連携しながら、行政以外の関係機関も含めて、0歳からおおむね18歳までの子どもとその保護者を切れ目なく支援していくこととなる。

一方、学校園では、それぞれの先生が、子どもに向き合い、保護者と丁寧にかかわることにより、子どもの小さな変化に気づき、子どもからのサインを受け止め、保護者の思いも十分理解した上で、それを組織的な対応、つまり子どもの情報を他の教職員と共有したり、必要に応じて福祉や保健、医療等の関係機関とも連携しつつ、専門家の助言も参考にすることが重要である。今までの画一的で管理的な生徒指導から、子ども一人ひとりの背景を理解した上で行う、柔軟性を持った生徒指導が望まれている。

今後とも人間的なふれあいを通じて心のきずなを深める生徒指導を行っていくことが、これからの社会を主体的に切り抜く子どもの育成につながると私は考えている。

☆☆学びの先進都市へ☆☆

「子どもを勉強させるために、ご褒美で釣ってもよい」

「能力をほめて育てるのはいけない」

慶應義塾大学の中室准教授は著書『「学力」の経済学』の中で、このように述べています。これまでの常識に反するような内容ですが、エビデンス(科学的根拠)を示して、説明されると納得がいきます。

尼崎市では、学校現場のたゆまない努力や学力向上対策事業等により、子どもの学力が概ね全国レベルとなっている一方で、不登校や生活習慣病、発達障害への対応など様々な課題もあります。また、国においても、これからの時代に求められる資質・能力を培うために、学習指導要領の改訂や大学入試改革など大きな転換期を迎えています。

そこで、子どもが成長過程において、学力はもちろん、思考力・判断力、豊かな人間性、生活習慣など、生涯にわたり社会を主体的に生きていくために必要な力を身につけ、社会の一員として責任を果たし、様々な場で活躍できる大人へと成長するよう、今年度「尼崎市学びと育ち研究所」をひと咲きタワー(教育総合センターと同じ建物)の10階に設置しました。

「尼崎市学びと育ち研究所」では、子ども一人ひとりの状況に応じ、その力を伸ばしていけるよう、外部の研究者等を迎え、多様な実践や中長期的な効果測定を通じたエビデンスに基づく先進研究等を行い、政策に活かすとともに、教員等が研究に関わることで力量形成につなげたいと考えています。

研究は緒に就いたばかりですが、現時点での状況をお伝えします。

所長は大阪大学の大竹教授に務めていただいております。NHK 教育テレビの「オイコノミア」という番組に出演されていますので、ご存知の方もいらっしゃるのではないでしょ

うか。大竹教授には「学級規模等が児童の学力・健康等に与える影響」の研究を進めていただいています。他に主席研究員が4名おり、関西国際大学の中尾教授には「インクルーシブ教育に関する研究」を市内小学校6名の先生方と一緒に進めていただいています。神奈川工科大学の岡田教授には「児童等の肥満や生活習慣病リスクに関する研究」、冒頭にも登場しました慶應義塾大学の中室准教授には「就学前教育が就学後の学力、健康等に与える影響」として主に保育環境に関する研究、神戸大学の北野准教授には「就学前教育・接続期教育の影響」として主に保育内容の質に関する研究について、それぞれ進めていただいています。これらの研究で得られた知見を活かして、エビデンスに基づいた効果的な教育政策を展開したり、先進的な教育実践を推進したりしたいと考えています。

「尼崎市学びと育ち研究所」におけるエビデンスに基づく研究と、教員の経験と努力に基づく実践がうまく融合すれば、必ず子どもたちの豊かな学びや育ちにつながります。中長期的な研究ですので、すぐには結果が出ないものもありますが、子どもたちのために今から動かなくてはならないのです。

ここ尼崎で「学びの先進都市」に向けて、日本で類をみない挑戦が始まっています。

(尼崎大学・学びと育ち研究担当 柳 伸彦)



「はつらつ学級」

「はつらつ学級」の一年も残りわずかとなってきました。私は今年から「はつらつ学級」で子どもたちと学んでいます。気づいたことなど含めて「はつらつ学級」の紹介をします。

子どもたちは、ここで心と体を休め、エネルギーを充電して学校復帰の準備をします。ですから、学校とは少し違ったメニューになっています。午前のはつらつタイムと2コマの学習時間（9：30分から12：00、休憩時間を含む）です。はつらつタイムは自主学習の時間で、2コマは5教科を中心に、今年からは創作の時間も設けて絵を描いたり作品を作ったりしています。午後は基本的にスポーツの時間（13：00から13：40、水曜日は学習）です。現在、仮住まいの状態です。運動する場所がないことが悩みの一つです。これを皆さんに読んでもらう頃にはどうなっているのか分かりません。なぜなら、平成31年度オープン予定の「子どもの育ちに係る支援センター」の中に入る施設のの一つとして工事に入っているからです。

さて、子どもたちの様子ですが、いくつか共通するところがあります。一つはコミュニケーションが苦手なこと。相手の気持ちを感じ取れず、何を言ったらいいのかどう応えたらいいのか分からず、困ってしまうそうです。同級生が特に苦手で大人はそうでもないとも言います。もう一つ、大勢の中に居ることも落ち着かないようです。声や音が煩く感じられ、その場から遠のきたくさなうです。多分、学校に通っている子どもたちの中にも同じような思いを抱いて、日々過ごしている子どもたちもたくさんいると思います。

一人で居ることは楽かもしれませんが、いろんな友だちがたくさんいる中で培われる力があるはず。いろんな人と交わる楽しさを味わったり、煩わしさを感じながらもそれを克服する力をつけることも、また、子どもたちにとって意味があるはず。

先日読んだ本にこんな一文がありました。「体を動かし、あたまを働かせ、心に感じる」（文芸評論家 臼井吉見の言葉）。

「はつらつ学級」での日々もこうでありたいと思います。通級している子どもたちは、当然ながら学校で味わうまでにはいきません。やっぱり学校が一番だと思います。子どもたちそれぞれに個々の悩みはあると思いますが、「はつらつ学級」も学校も、子どもたちが安心してありのままの自分を出せるような場所でありたいと考えます。

「はつらつ学級」では時間はゆっくり流れていきます。立ち止まってじっくり考えたり、手に触れて肌で感じてみたりすることを大切にしています。コミュニケーションを大切に投じたボールが返ってくるまでゆっくり待ちます。4月から少しずつですが子どもたちは返し始めています。自分の思いを語り始めています。少しずつですが仲間といっしょにゲームやスポーツをしたりすることができるようになってきています。「ただいま、充電中なのです。」

そこで、先生方お願いします。どうぞ子どもたちのそんな姿をのぞきにきてください。研修等でこちらに来られることがあるはず。その折に声をかけてください。きっと子どもたちのエネルギーになると思います。

最後に、今年度40人が（1月15日現在）見学に来てくれました。残念なことです。次の一歩が踏み出せない子どもたちがたくさんいます。この子どもたちを含めて学校といっしょに補給基地になることがわたしたちの役目だと思います。

どうぞよろしく願いいたします。

（はつらつ学級 井上 公哉）



教育情報コーナーへどうぞ

教育情報コーナー(3階)では、先生方に利用していただきたい本や資料、雑誌等を整備しています。教育関係の図書以外にも、様々な分野の図書を所蔵していますので、教育総合センターでの研修や会議の時など、ぜひお立ち寄りください。

また、図書や資料のお問い合わせがありましたら、お気軽におたずね下さい。庁内メールでも貸出や返却が出来ますので、ご利用下さい。

「新学習指導要領」に関する本が、たくさん入ってきました。

★『平成29年版 学習指導要領～全文と改訂のピンポイント開設』

(大杉昭英編/明治図書)

全文&要点解説で新学習指導要領のポイントがまるわかり！各教科のキーマンによるポイント徹底解説。資質・能力をベースとした大改訂の学習指導要領を最速で徹底解説！

★「平成29年改訂 教育課程実践講座」

※発刊遅延の巻あり (ぎょうせい)

★『次代を創る「資質・能力」を育む学校づくり①～「社会に開かれた教育課程」と新しい学校づくり』

★『次代を創る「資質・能力」を育む学校づくり②～「深く学ぶ」子供を育てる学級づくり・授業づくり』

(吉富芳正編/ぎょうせい)

★「3時間で学べる 平成29年版 小学校新学習指導要領 Q&A」

(新しい学習指導要領を研究する会/明治図書)

★『「主体的・対話的で深い学び」を実現する！数学科「問題解決の授業」ガイドブック』

(相馬一彦編著/明治図書)

★「主体的・対話的で深い学びを実現する！100万人が受けてみたい 社会科アクティブ授業モデル」

(河原和之編著/明治図書)

★「特別支援教育のアクティブ・ラーニング～主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」

(三浦光哉編著/ジヤース教育新社)

他にもたくさんのお本が入っています。ごく一冊をご紹介します。

★「ならず者」が学校を変える～場を活かした学校づくりのすすめ

(武井敦史著/教育開発研究所)

★「データで読む 教育の論点」

(舞田敏彦著/晶文社)

★「教職員のための“アサーション”実践50例～会話で学ぶ豊かなコミュニケーション」

(沢崎俊之編著/第一法規)

(情報コーナー担当・松浦)

